

被災状況の説明に耳を傾けるゼミ生＝9月



話を聞いた。尾島市と七輪島市を訪ねた。9月1日から泊3日、石川県の被災地を訪問した。

生が能登半島を訪問し、そこで暮らす人々から聞いた話を冊子にまとめた。『能登の手』と題し、震災での被災の様子やそこからの再建、現在の思いなどを丹念に積み上げた。渡辺ゼミは今年度、大それた移動書店・ハリ書房とともに本に関するイベントを開催。その売り上げを能登地震被災地に募金したことが、今回の取り組みのきっかけだった。もっと能登のことを理解したいと、ゼミ生3年次有志8人が、9月1日から泊3日、石川県の被災地を訪問した。

商・渡辺達朗ゼミ

冊子『能登の手』刊行

noto note



『能登の手』を刊行した渡辺ゼミのメンバーと渡辺教授

能登半島で暮らす人々の思い積み上げる

たのは、醤油店や酒店の経営者、漆職人など、現地で暮らし、商いを営む人々。初めて足を運んだ被災地で「最初は被災された方々にどこまで聞いていいのかわからないが、さうに深い関心を寄せるきっかけになれば」と願っている。またメンバー一同「9月には豪雨被害もあり、能登地震から1年たつ現在、あらためて支援が必要だ」と訴える。『能登の手』は募金し、取材相手が語ったことが忘れられない。「能登の人の生の声を、広く知ってもらい、新たな支援につなげたい」と金子うららさんは語る。夏期休暇明けには冊子にまとめることを決め、分担してインタビュー録音を文字起こし。レイアウトや表紙デザインなども担当した。吉田渉真さんは「読んでくれた方が能登を身近に感じて、当時の記憶を呼び起こし、さらに深い関心を寄せるきっかけになれば」と願っている。またメンバー一同「9月には豪雨被害もあり、能登地震から1年たつ現在、あらためて支援が必要だ」と訴える。『能登の手』は募金し、取材相手が語ったことが忘れられない。「能登の人の生の声を、広く知ってもらい、新たな支援につなげたい」と金子うららさんは語る。夏期休暇明けには冊子

専大校友を訪ねて

石川県七尾市の名物マスター



窪 丈雄さん (平元商)

昨年1月の能登半島地震で大きな被害に見舞われた石川県七尾市。復興に向けて歩む町の中心部、一本杉通りに整備された仮設店舗で一軒の喫茶店が営業を再開した。1953年創業の老舗喫茶店「中央茶廊」。名物マスターの窪丈雄さんが3代目として切り盛りする。自家焙煎のコーヒーと銅板で焼くホットケーキが二枚看板。海外の農園に自ら足を運び、客に自信を持って提供できる豆だけを厳選して仕入れている。「元々は母の店

被災した老舗喫茶店の再建目指す

の手伝いで始めた仕事だが、あれこれ試行錯誤するうちに段々楽しくなり、気づいた「コーヒーの沼(魅力)にどっぷりはまっていた」と笑顔をみせる。40代で飛び込んだ新たな世界。先人に追いつくためには人一倍の努力が必要と考え、知識の研鑽やコーヒー関連の資格の取得にも励む。納得の味を追求する姿勢に妥協はない。こだわりの一杯と楽しい語らいを求めて、被災前の旧店舗には毎日多くの常連客が訪れた。近年は、七尾市を舞台にした作品『君は放課後インソムニア』に登場したことで、「聖地巡礼」を楽しむ国内外のファンでにぎわった。

そんな憩いの場も、震災で甚大な被害を受けた。明治期に建てられた趣ある建物の壁はひび割れ、床や天井は大きくゆがんだ。看板は落ち、ガラスケースは倒れ、辺り一面に食器が散乱した。しかし「愛用の焙煎機が無事だったのは不幸中の幸い」と窪さん。「自分にできるのはコーヒーを淹れること」と、震災直後から炊き出しに参

テニス部
鈴木さん(文4)

デフリンピック東京2025大会

日本代表候補に内定



日本代表選考会で活躍した鈴木さん
写真提供:アイルージャパン合同会社

2025年に日本で初開催される聴覚障がい者国際大会「Deaf Tennis 2024 Global Challenge」が11月25日、都内で開かれた。テニス部の鈴木梨子さん(文4)が、女子ダブルスで優勝。女子シングルスで3位、混合ダブルスで2位入賞と活躍した。この結果、12月10日、テニス競技日本代表選考会として鈴木さん

バラ五輪2大会連続金 木村選手講演 多様性考える

神田キャンパスで開講している「学際科目(パラスポーツ)」(商学部・富川理充教授)は、パラ五輪を通じて真の多様性や共生社会を学び、いかに実践に結びつけられるかを考える授業。11月20日は、パラ水泳で活躍する木村敬一選手を外部講師として招いた。木村選手は北京200



自身の経験を語った木村選手

8大会から5大会連続してパラリンピックへ出場し、東京大会、パリ大会では競泳男子100メートルタフライ(S11:視覚障害クラス)で金メダルを獲得した世界最強現役パラスイマーの一人。東京大会後に単独で米国留学へ踏み切った経験など、常に自分自身の可能性に挑戦し、誰かの便利は誰かの不便にもなり得るという言葉をハッとさせられた。他者視点からも考えられるようにしたい」と話した。



闇バイトを題材に漫才を披露したさくらだモンスターのマサキさん(右)としょっぱーさん

さくらだモンスター 闇バイトを注意喚起

漫才で学ぶ啓発講座 冬期休暇の前に、学生が巻き込まれやすい事故や事件への注意を促す「漫才で学ぶ啓発講座」が12月17日、生田キャンパスで開かれた。お笑いコンビのさくらだモン

露。また、マサキさんは祖母がオレオレ詐欺に、しょっぱーさんは自身がネット通販詐欺にあった経験を話し「詐欺は身近なところにある。周りの人が引っ掛からないように、そして自らも絶対に関わらないように気をつけて」と訴えた。多摩警察署生活安全課は「闇バイトが疑われる場合や、犯行グループに個人情報を握られて脅された場合などは、一人で悩まずに警察に相談してほしい」と呼びかけた。昼休みの開催で、約100人の学生が参加。経営学部2年次の女子学生は「アルバイトを探す際は必ずその会社のホームページを確認している。だましの手口も巧妙なので、今日の話を聞いて、改めて気をつけたいと思った」と話した。